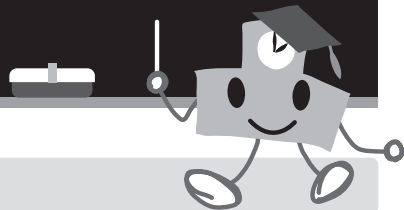


樹木を観察し、研究機関へ自ら質問。 「木の新聞」を作ること、緑について考える。

豊かな樹木に囲まれた地域性を生かし、身近な「木」についての疑問点を見つけることで、木が私たちのパートナーであることを学んでいる。自分たちの生活と切り離せないものとおして、「緑の環境」について考えることにつながっている。



内容 「木」を題材にして環境を学ぶ

本校では、樹木の観察を通じ、環境について考える取組を行っている。本校は、校庭に樹木が多く、月寒公園が近いという恵まれた環境にあり、サクラやクリ、イチョウ、アカマツ、シラカバ、クヌギ、ナラの木などの大木を観察することができる。古木もあるので樹木医に診断してもらうこともあり、子供たちにとって木は、身近なものとなっている。

毎年5年生が月寒公園や校庭の樹木を観察し、その種類などを調べたあと学校の近くにある森林研究所へ行き、樹木の特徴、用途などについて学んでいる。

研究所へ行く前に、「木」について調べたいことをリストアップ。

研究所では子供たちの「どうして葉が落ちるの?」といった質問から発展し、木と私たちの生活のつながりや、木が住宅や家具だけでなく様々な用途で取り入れられていることなどについて学習している。

観察と研究所での学習から学んだことは、それぞれが新聞としてまとめ、互いの観察内容を知ることができるよう、クラスに掲示している。

また、平成20年度からは木工芸作家の方を学校に招き、そのときのお話から、子供たちが「木の美しさや豊かさ」を学んでいる。日々の生活の中で、自分たちと切り離せないものを学ぶことから「緑の環境」を考える学習を行っている。

今後 自発的な省エネルギー行動に

子供たちは森林が減っていることを知識として知っているが、まだまだ実感がない。「木」と自分たちの生活をつなげて考えることで、木が「環境」の大切なパートナーなのだと思わせたいと考えている。

今後は、木工芸工房へ見学に行き、実際に木片を使って「はしおき」を作るなど、「木」に触れながら学習することも取り入れられたらと考えている。



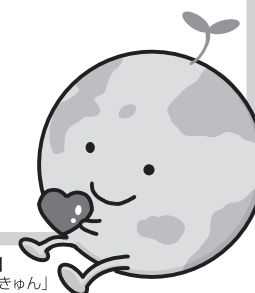
木の新聞

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

本校の階段の踊り場には、木工芸作家の方の木作品とともに、子供たちへの「地球がより長生きするために」というメッセージが飾られています。子供たちは、日々このメッセージを目にすることで「地球」や「自然」を大切にすることを再認識しています。

MEMO



未来の札幌を見つめる【環境】
イメージキャラクター「ちっぴゅん」

ごみ分別・資源物回収

リングブル ペットボトル キャップ収集

フードリサイクル 農園

身近なリサイクル

清掃活動

植樹・花壇

ビオトープ

ソーラーパネル

委員会 児童会

地域と協働

その他